

第1期中期目標期間に係る業務実績報告書

(令和3年4月1日～令和7年3月31日)

令和7年6月



地方独立行政法人 玉野医療センター

1. 現況（令和7年3月31日現在）

（1）法人名 地方独立行政法人玉野医療センター

（2）所在地 岡山県玉野市宇野2丁目1番20号

（3）設立年月日 令和3年4月1日

（4）運営する病院

病院名	所在地	病床数
たまの病院	玉野市宇野2丁目1番20号	一般病床 140床
		療養病床 50床
		計 190床

（5）役員の状況

役員名	氏名	備考
理事長	佐藤 利雄	
副理事長	磯嶋 浩二	理事長補佐
理事	山原 茂裕	たまの病院 病院長
	三島 康男	玉野市立玉野市民病院 名誉病院長
	武久 洋三	平成医療福祉グループ 会長
	前田 嘉信	岡山大学病院 病院長
監事	福原 一義	公認会計士・税理士
	小林 裕彦	弁護士

（6）職員数（令和6年度末現在）

職種	正職員	再雇用職員	任期付職員	パート	計
医師	12人	5人	0人	116人	133人
看護職	102人	9人	0人	39人	150人
医療技術職	72人	3人	0人	3人	78人
事務職	28人	1人	0人	16人	45人
その他職種	24人	2人	1人	23人	50人
計	238人	20人	1人	197人	456人

2. 地方独立行政法人玉野医療センターの理念、方針

（1）基本理念

～ 玉野に暮らす命は、玉野の地で守ります ～

玉野の地で祝福されて生を享け、

おだやかに育ち、

力強く根を張り、

そして玉野の地で安らかに生の終わりと向き合う。

そんな玉野の地で生きる人を支え続けます。

（2）基本方針・経営方針

1. 地域の中核病院として、急性期から慢性期、予防医療まで全ての健康のトータルマネジメントを提供します。
2. 病める方の権利と意思を尊重した、安心・安全な医療を行います。
3. 地域との医療連携を深め、暮らしに密着した信頼される医療づくりに貢献します。
4. 優れた医療従事者の人材育成に努め、医療の質の向上をめざします。
5. 健全で自立した病院経営を行います。

1. 法人運営総括

地方独立行政法人玉野医療センターは、玉野市民病院、玉野三井病院の運営を効率的に行い、安定的な経営基盤を確立するとともに、2病院を令和7年1月開院予定の新病院へ統合し、地域における中核医療機関として、将来に向けて持続可能な医療を提供するために、令和3年4月1日に設立された。

第1期中期目標期間の前半においては、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、未知の感染症への対策の長期化により、職員の疲弊が徐々に進行し、感染拡大のピーク時には、職員にも陽性者や濃厚接触者が多数発生し、限られた職員による発熱外来や受け入れ病床の確保など、職員の疲弊もピークに達し、極めて厳しい状況であった。

こうした状況の中で、受診控えによる外来患者数の減少が続く、院内感染が発生した際には、新規入院患者の受け入れを停止するなど、入院患者数も大きく落ち込む時期があった。

第1期後半の令和5年5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行後は、入院患者数は一定の改善傾向となっているものの、外来患者数は、長期にわたるコロナ禍による行動変容の影響などによるものと考えられる低迷が続いており、コロナ禍前の患者数の水準への回復は今も見通せない状況にある。

組織運営については、経営等に関する意思決定を行うための体制として、理事長及び5人の理事で構成する理事会を設置し、法人化のメリットである理事長を中心とした迅速な意思決定が行える体制を構築するとともに、効率的な組織運営を行うため、玉野市民病院と玉野三井病院を一元管理し、法人全体の経営企画、経理、人事給与等について、法人本部に集約する体制を構築した。

こうした体制の構築により、2病院協働での新型コロナウイルス対策への迅速な対応や人間ドック業務の玉野市民病院への集約などを実施し、薬剤、医療材料、栄養給食など各部門の調達や業務内容の一本化のための検討などの取り組みを行った。

また、第1期最大のプロジェクトである新病院建設については、建設資材や労務費の高騰による建設費の増額がV Eによる削減を加えてもおお増額になり変更契約を行ったが、予定どおりの工期で竣工、引き渡しを受けた。運営面では2病院のスタッフ合同で2病院横断の部門ワーキンググループを設置し、新病院での受付方法や外来診療、病棟運営など円滑な運用を行うための業務マニュアルの作成に取り組んだ。また、新しい電子カルテなど医療情報システムの導入や医療機器等の調達を進め、入院患者や物品の移転準備などについても組織全体で取り組んだ。安全安心な入院患者の移転を行い、令和7年1月1日、たまの病院を開院した。

第1期の経営状況は、入院、外来収益は目標を下回ったものの、公的病院として新型コロナウイルス感染症へ対応するため、行政機関と連携しながらワクチン接種や感染症患者の受け入れに積極的に取り組んだ結果、補助金等の収益があった。しかし、物価の急激な高騰による各種費用の増大、新病院建設工事費用の増大のほか開院に係る収益の減少と準備費用や減価償却費の大幅な増加等により、経常収支比率は100%を上回ることができなかった。

2. 大項目ごとの特記事項

第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

第1期においては、担うべき医療提供体制として、救急医療については、断らない医療の実践への取り組みにより受入件数は増加したものの、受電件数が大幅増となったことに伴い受入率で見ると低下し数値目標は達成できなかったが、実質的な改善となっている。

リハビリテーション医療や紹介率などについては、一部目標値を達成できたが、在宅医療など将来の地域における医療ニーズを視野に入れた体制整備が引き続き課題となっている。また、小児・周産期医療については、市と連携しながら診療体制の充実に向けて引き続き岡山大学への要請等を行っており、小児医療については、休診となっていた木曜日について、令和5年度から診療を再開した。

新病院建設については、感染症への対応や免震構造を取り入れた新病院の整備が予定どおり竣工、引き渡しを受けて令和7年1月1日に開院した。

災害対応については、たまの病院の事業継続計画（BCP）を策定が課題である。新興感染症対応については、これまでの経験を活かし、自治体と連携し対応する体制を構築した。

医療の質の向上については、2病院体制から1病院体制に移行することを念頭に置き、各部門での人事交流や人事異動などを積極的に行い、効率的かつ効果的な医療提供体制の構築を推進することで医療の質の向上を図った。

第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項

理事長及び5人の理事で構成する理事会を設置し、地方独立行政法人化によるメリットを最大限発揮できるよう、理事長を中心に速やかに意思決定を行い、対応する体制を構築した。

第4 財務内容の改善に関する事項

経営基盤の確立については、比較的診療体制の整っている日勤帯での救急患者の受け入れを強化するとともに、理事長、病院長、地域医療連携室スタッフ等による医療機関等への広報活動を行うなど、紹介患者の確実な受け入れや積極的な逆紹介の推進に取り組み、地域における中核医療機関として、また公的病院としての役割の遂行に努めながら入院患者数の確保にもつながるような取り組みを行った。

収益の確保と経費削減の取り組みについては、前述の救急患者の受け入れの強化は、診療報酬改定への的確な対応への観点からも必要な取り組みであり、全ての職種で意識を共有し、収益を確保につなげるとともに、経費削減については、光熱費や診療材料をはじめとした急激な物価高騰など厳しい状況であったが、2病院での薬剤やSPDの一本化などコスト削減に向けた検討を行った。

3. 今後の展望

次期中期計画初年度の令和7年度に向けては、これまでの経営基盤強化の取り組みや医療機能等の改善を継承しながら、たまの病院での運営体制を早期に確立して、より良い地域医療の提供と効率的かつ効果的で持続可能な病院運営の実現を目指す。

大項目	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
小項目	1 担うべき医療提供体制 (1) 救急医療

中期目標	急性期医療を担う地域の中核病院として「断らない医療」を実践するとともに、市内外の医療機関と連携し夜間及び休日における救急医療体制を確保し、1次救急から2次救急までの地域で担うべき救急医療については、地域のなかで完結できる体制を構築すること。
------	--

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価				玉野市による中期目標期間の評価																																							
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）				評価	評価	評価の判断理由・意見等																																					
ア 救急患者受入体制 玉野市民病院及び玉野三井病院のいずれも救急告示病院の指定を受け、それぞれの病院で救急患者の受け入れを行ってきたが、一体的な運用を行うことで病院間での役割分担と連携を深め、機能の集約、受診体制の充実を図ることで、1次救急から2次救急を始めとした地域救急を積極的に受け入れ、断らない医療を実践する。 イ 市内外の医療機関との連携 急性期病院からの救急専門医派遣の受け入れと地域の医療機関との連携により、救急医療体制の強化を図る。 ウ 救急隊との連携 救急隊との情報共有のための研修会及び救急救命士の病院実習等の機会を通して、救急隊との連携を密にし、救急患者を受け入れしやすい環境を整える。 【目標】 <table><tr><th>項目</th><th>令和6年度 目標</th></tr><tr><td>救急受入件数</td><td>820 件</td></tr><tr><td>救急受入率</td><td>67.6 %</td></tr><tr><td>救急搬送割合</td><td>27.8 %</td></tr></table>	項目	令和6年度 目標	救急受入件数	820 件	救急受入率	67.6 %	救急搬送割合	27.8 %	第1期においては、新型コロナウイルス感染症への手探りでの対応から始まり、令和5年5月の5類移行後においても、引き続き院内感染等への影響も考慮しながら、断らない医療を実践するため、救急受入件数の増加に向け取り組んだ。 玉野市民病院では、引き続き岡山市立市民病院から救急専門医の派遣を受けるなど当直体制を整え、玉野市外に搬送される件数の減少に向け取り組んだ。たまの病院開院後も継続して救急専門医派遣による当直体制を維持した。 また、救命救急士の病院実習を行い救急隊に病院の実情を把握してもらうことで救急搬送時に必要となる情報共有に取り組んだ。 令和5年度からは、救急受入率の向上を図るため、平日勤務時間内の100%受け入れを目標として取り組んだ。 受入件数は増加して目標を達成したが、受入率については分母となる受電件数の増加が著しいため、目標値は達成できなかった。 病床の効率的な運用による救急受入増加など、入院患者数確保と並行して救急受入体制の見直しなどを進めており、引き続き改善に取り組む。たまの病院では将来の病床需要を見据えた病床数の適正化を行ったため、病床コントロールを強化して高い病床稼働率を維持しつつ救急受入れ病床の確保に努める。 【実績】 <table><tr><th>項目</th><th>令和3年度 実績</th><th>令和4年度 実績</th><th>令和5年度 実績</th><th>令和6年度 実績</th></tr><tr><td>救急受入件数</td><td>717 件</td><td>755 件</td><td>989 件</td><td>915 件</td></tr><tr><td>救急受入率</td><td>59.1 %</td><td>46.1 %</td><td>49.9 %</td><td>48.2 %</td></tr><tr><td>救急搬送割合</td><td>24.3 %</td><td>23.6 %</td><td>28.7 %</td><td>26.7 %</td></tr></table>				項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	救急受入件数	717 件	755 件	989 件	915 件	救急受入率	59.1 %	46.1 %	49.9 %	48.2 %	救急搬送割合	24.3 %	23.6 %	28.7 %	26.7 %	3	3	令和3年度及び令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、救急受入件数の実績は目標を下回っていたことはやむを得ない面がある。しかし、令和5年度以降は受電件数の増加が要因となり、救急受入率と救急搬送割合の目標は未達成となっているものの、積極的に救急受入に取り組んだことで救急受入件数が増加していることから、救急医療について期待される役割を果たしている。 新病院開院後においては高い病床稼働率を維持しながら救急受入を行うための病床コントロールの強化に取り組んでいる。 【年度評価結果】 <table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3	3	3	3
項目	令和6年度 目標																																											
救急受入件数	820 件																																											
救急受入率	67.6 %																																											
救急搬送割合	27.8 %																																											
項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績																																								
救急受入件数	717 件	755 件	989 件	915 件																																								
救急受入率	59.1 %	46.1 %	49.9 %	48.2 %																																								
救急搬送割合	24.3 %	23.6 %	28.7 %	26.7 %																																								
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																									
3	3	3	3																																									

大項目	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
小項目	1 担うべき医療提供体制 (2) 小児・周産期医療

中期目標	安心して子どもを産み育てられる環境を守っていくため、市内外の医療機関と連携・役割分担を行いながら、外来診療の継続及び入院診療の再開を目指すなど、市民ニーズに沿った診療機能を備えること。
------	--

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価									
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等								
ア 小児医療 小児専門医の確保による外来診療の継続と入院診療の再開を目指すとともに、重症疾患や緊急処置が必要な患者に対する専門治療のため、小児救急医療支援病院（県南東部医療圏内に2施設）や近隣の救急医療機関と密接に連携し、安心して子育てできる環境を支援する。 イ 周産期医療 周産期専門医の確保による婦人科外来診療を継続するとともに、周産期医療を取り巻く環境や医療提供体制の変化を踏まえつつ、総合周産期母子医療センター（県南東部医療圏内に1施設）や地域周産期母子医療センター（同2施設）と密接に連携し、安心して産み育てられる環境を支援する。	小児医療については、令和4年度に玉野市と連携しながら新たな小児科医の確保について岡山大学に要望を行った結果、令和5年度からの寄付講座開設により、月・木曜日に岡山大学から小児科医師の派遣が受けられることとなり、木曜日の休診が解消された。令和5年度の延外来患者数は令和4年度と比べ約1,000人増加し、小児科診療の充実が図れた。 周産期医療については、岡山大学からの非常勤医師の派遣による婦人科外来診療体制は維持しつつ、周産期医療への取り組みについても、引き続き玉野市と連携しながら岡山大学に要望を行った。 いずれの診療科も全国的な医師不足の状況の中、入院診療の再開については複数名の常勤医師確保が必要となるため課題は多く、引き続き岡山大学に対し、医師確保の要望と合わせ、市民サービス向上につながる診療体制の構築手法についても意見交換等を行うなど取り組みを継続する。	4	4	全国的な医師不足の状況において、岡山大学に小児科医師派遣の要望を行った結果、寄付講座開設により令和5年度から玉野市民病院に小児科医師の派遣が得られ、外来診療が充実したことは高く評価している 周産期医療では、第一期中期目標期間を通して婦人科の外来診療体制を維持し、医師確保に取り組んでいることを評価している。 【年度評価結果】 <table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>3</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr></table>	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3	4	4	4
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度									
3	4	4	4									

大項目	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
小項目	1 担うべき医療提供体制 (3) リハビリテーション医療

中期目標	専門スタッフの配置や機能面での充実を図り早期の在宅復帰を支援するとともに、退院後も安心して在宅生活を過ごすことができるよう退院後のフォロー体制を整備するなど、リハビリテーション医療の充実を図ること。
------	---

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価																																								
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等																																							
ア リハビリテーション実施体制 早期治療・早期退院を実現するため、365日リハビリテーション体制を維持し治療の初期段階からリハビリテーションによる介入を行うとともに、十分なスタッフを配置することで回復の目安となるアウトカム評価の向上を図り、患者の在宅復帰を支援する。 イ 退院後のフォロー体制 退院後も在宅での自立した生活が継続できるよう、リハビリテーションスタッフが自宅まで訪問し、在宅でも治療（リハビリテーション）が続けられるようサポート体制を整える。 ウ 外来リハビリテーションの実施 外来診療が終わった後や退院した後も継続してリハビリテーションを必要とする患者に対して、必要なリハビリテーションが提供できるよう、外来診療の1つとしてリハビリテーションを実施する。 【目標】 <table><tr><th>項目</th><th>令和6年度 目標</th></tr><tr><td>リハビリ提供単位数</td><td>4.8</td></tr><tr><td>実績指数</td><td>55.3</td></tr><tr><td>訪問リハビリ件数</td><td>4,630 件</td></tr></table>	項目	令和6年度 目標	リハビリ提供単位数	4.8	実績指数	55.3	訪問リハビリ件数	4,630 件	玉野市民病院においては、365日リハビリテーションが提供できる体制を維持し、切れ目のないリハビリテーションの提供を行った。たまの病院においても引き続きリハビリテーション実施体制を維持した。 また、退院して在宅復帰した患者さんに訪問リハビリテーションを提供することにより、在宅復帰後の生活の質の向上に必要なリハビリテーションの提供を行った。 たまの病院移行後を視野に入れながら、より機能集約が図れるように統合前の2病院のリハビリテーションスタッフの人事交流を推進した。 【実績】 <table><tr><th>項目</th><th>令和3年度 実績</th><th>令和4年度 実績</th><th>令和5年度 実績</th><th>令和6年度 実績</th></tr><tr><td>リハビリ提供単位数</td><td>4.7</td><td>4.8</td><td>5.1</td><td>4.5</td></tr><tr><td>実績指数</td><td>52.9</td><td>52.1</td><td>49.6</td><td>49.8</td></tr><tr><td>訪問リハビリ件数</td><td>3,915 件</td><td>3,935 件</td><td>4,583 件</td><td>4,456 件</td></tr></table>	項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	リハビリ提供単位数	4.7	4.8	5.1	4.5	実績指数	52.9	52.1	49.6	49.8	訪問リハビリ件数	3,915 件	3,935 件	4,583 件	4,456 件	3	3	令和3年度及び令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により訪問リハビリテーションの件数は目標を大きく下回ったが、リハビリテーション提供による改善を示す実績指数は高い水準で推移したことに加えて、第1期中期目標期間全体を通して365日リハビリテーション実施体制と退院後のフォロー体制を維持してリハビリテーション医療の充実に貢献している。 【年度評価結果】 <table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>				令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3	3	3	3
項目	令和6年度 目標																																										
リハビリ提供単位数	4.8																																										
実績指数	55.3																																										
訪問リハビリ件数	4,630 件																																										
項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績																																							
リハビリ提供単位数	4.7	4.8	5.1	4.5																																							
実績指数	52.9	52.1	49.6	49.8																																							
訪問リハビリ件数	3,915 件	3,935 件	4,583 件	4,456 件																																							
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																								
3	3	3	3																																								

大項目	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
小項目	1 担うべき医療提供体制 (4) 検診・予防医療

中期目標	疾病の早期発見・早期治療へ向けて、人間ドックや検診等の総合的な予防医療の充実を図るとともに、市の健康福祉部門や保健機関と連携し、健診受診率の向上など市民の健康増進に対する取組みに協力を行うこと。
------	---

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価				玉野市による中期目標期間の評価					
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）				評価	評価	評価の判断理由・意見等			
人間ドック、生活習慣病予防健診、特定健診、企業健診、予防接種など様々な予防医療を実施することで、疾病の早期発見または生活習慣病の予防につなげていくとともに、市の施策と連携し健診受診率の向上に向けた啓発活動への取組みに寄与する。	人間ドックや玉野市が実施するがん検診等の健診・予防医療については、玉野市等と連携して取り組むとともに、玉野三井病院の人間ドックについては、効率的な運営を図るため、玉野市民病院に機能集約を行った。 予防接種については、従来からの定期接種に加え、新型コロナウイルスワクチンの接種についても実施し、行政と連携し積極的な取り組みを行った。 たまの病院開院準備のためやむを得ず受け入れを減少させたが、数値目標の達成に向け一層の取り組みを進める。				3	3	コロナ禍となった令和3年度及び令和4年度は、行動制限がされるなど社会が混乱する中で、新型コロナワクチン接種については行政と連携して市内で中心的な役割を果たし、公的医療機関としての期待に応えた。また、令和6年度は新病院への移転に伴い前年度比で減少しているが、第1期中期目標期間を通じて人間ドックや検診の実施により市民の健康増進に貢献している。			
【目標】	【実績】						【年度評価結果】			
項目	令和6年度目標	項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人間ドック・健診受診者数	11,500 件	人間ドック・健診受診者数	11,328 件	10,172 件	10,442 件	9,247 件	4	3	3	3
予防接種件数	4,300 件	予防接種件数	4,258 件	3,643 件	3,357 件	2,782 件				
		※新型コロナワクチン公費接種件数	45,775 件	14,170 件	6,590 件	—				

大項目	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
小項目	1 担うべき医療提供体制 (5) 在宅医療

中期目標	団塊の世代が75歳となる2025年を見据え、自宅等の住み慣れた環境での療養を希望される人が増えていることから、地域包括ケアシステムの構築に向け、かかりつけ医や介護事業所等と連携し、訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーションなどの在宅医療への取組みを推進すること。
------	---

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価																																																					
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等																																																				
ア 地域包括ケアシステム 国の進める地域包括ケアシステムの構築に向けて、かかりつけ医や介護事業所等との連携強化を図り、今後の需要増加が見込まれる在宅医療の取組みを推進する。 イ 在宅療養支援病院 玉野三井病院が認定を受けていた在宅療養支援病院の機能を引き継ぎ、24時間体制で緊急対応できる体制を整備し、安心して自宅で療養生活が送れるよう在宅療養環境を支援する。 【目標】 <table><tr><th>項目</th><th>令和6年度 目標</th></tr><tr><td>在宅復帰率</td><td>84.0 %</td></tr><tr><td>訪問診療件数</td><td>1,200 件</td></tr><tr><td>訪問看護件数</td><td>1,200 件</td></tr><tr><td>緊急の往診件数</td><td>44 件</td></tr><tr><td>在宅の看取り件数</td><td>10 件</td></tr></table>	項目	令和6年度 目標	在宅復帰率	84.0 %	訪問診療件数	1,200 件	訪問看護件数	1,200 件	緊急の往診件数	44 件	在宅の看取り件数	10 件	地域包括ケアシステムの実現に向けて、たまの病院開院後の在宅部門の強化を視野に入れ、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーションへの取り組みを行った。 2病院とも在宅療養支援病院として地域の医療機関と連携し在宅での診療等に努め、緊急時の往診や在宅での看取りにも積極的に対応した。 たまの病院でも将来の医療需要を視野に入れながら、在宅療養支援病院として在宅医療については重点的に取り組んでいく。 【実績】 <table><tr><th>項目</th><th>令和3年度 実績</th><th>令和4年度 実績</th><th>令和5年度 実績</th><th>令和6年度 実績</th></tr><tr><td>在宅復帰率</td><td>80.8 %</td><td>82.7 %</td><td>83.8 %</td><td>82.3 %</td></tr><tr><td>訪問診療件数</td><td>1,189 件</td><td>1,191 件</td><td>1,036 件</td><td>1,047 件</td></tr><tr><td>訪問看護件数</td><td>1,148 件</td><td>1,029 件</td><td>857 件</td><td>1,064 件</td></tr><tr><td>緊急の往診件数</td><td>36 件</td><td>46 件</td><td>48 件</td><td>60 件</td></tr><tr><td>在宅の看取り件数</td><td>13 件</td><td>13 件</td><td>12 件</td><td>7 件</td></tr></table>	項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	在宅復帰率	80.8 %	82.7 %	83.8 %	82.3 %	訪問診療件数	1,189 件	1,191 件	1,036 件	1,047 件	訪問看護件数	1,148 件	1,029 件	857 件	1,064 件	緊急の往診件数	36 件	46 件	48 件	60 件	在宅の看取り件数	13 件	13 件	12 件	7 件	3	3	在宅医療の取り組みを推進し、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーションに取り組むとともに、在宅療養支援病院の認定を玉野三井病院に加えて玉野市民病院でも取得し24時間対応できる体制を整備している。 【年度評価結果】 <table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>			令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3	3	3	3
項目	令和6年度 目標																																																							
在宅復帰率	84.0 %																																																							
訪問診療件数	1,200 件																																																							
訪問看護件数	1,200 件																																																							
緊急の往診件数	44 件																																																							
在宅の看取り件数	10 件																																																							
項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績																																																				
在宅復帰率	80.8 %	82.7 %	83.8 %	82.3 %																																																				
訪問診療件数	1,189 件	1,191 件	1,036 件	1,047 件																																																				
訪問看護件数	1,148 件	1,029 件	857 件	1,064 件																																																				
緊急の往診件数	36 件	46 件	48 件	60 件																																																				
在宅の看取り件数	13 件	13 件	12 件	7 件																																																				
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																																					
3	3	3	3																																																					

大項目	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
小項目	1 担うべき医療提供体制 (6) 災害医療

中期目標	市の防災担当部門と連携し、災害時にあっても診療体制及び医療機能の確保ができるよう、新病院において耐震化等の適切な災害対策を実施するとともに、近隣の医療機関と協力し災害時医療への対応を図ること。
------	--

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価									
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等								
災害時にあっても途切れることなく、診療体制及び医療機能が維持されるよう災害時活動マニュアルを具備し、定期的な訓練と災害時を想定した医薬品、水、食料等の備蓄、設備の維持管理を行うとともに、公的な医療機関として医療救護活動を通して、災害時における医療の中心的な役割を担う。 また、新病院は最新の耐震基準に準拠した施設にするとともに、津波浸水等への対策を行うことで、将来的に見込まれる南海トラフ地震等の災害へ備える。	現行の災害時活動マニュアルの見直しに取り組むとともに、新病院の整備においては、免震構造を備え、災害時には最低3日間の自立運用が可能な地域の災害医療拠点として運用できるよう整備計画を進めた。 たまの病院における災害時活動マニュアルや事業継続計画（BCP）の策定に取り組む。	3	3	新病院は大規模災害へ対応できる施設となっており、南海トラフ大地震などの災害時の医療拠点として運用し、公的な医療機関として医療救護活動を実施することとしており、今後は事業継続計画（BCP）の策定に取り組むことから評価3としている。 【年度評価結果】 <table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3	3	3	3
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度									
3	3	3	3									

大項目	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
小項目	1 担うべき医療提供体制 (7) 新たな感染症への対応

中期目標	公的な医療機関として、インフルエンザやコロナウィルス等の全国的に感染拡大が危惧される新たな感染症が発生した場合には、市及び関係機関と連携し、早期の収束に向けて地域における中心的な役割を担うこと。
------	---

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価									
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等								
新病院の整備に合わせて患者動線や諸室の配置に配慮した造りとする ことで、治療を必要とする患者に対して適切な医療が提供できる体制を確保するとともに、市及び関係機関、医療圏内の感染症指定医療機関（第1種：1施設、第2種：2施設）と連携し、早期の収束に向けて地域における中心的な役割を担う。	第1期中期計画期間においては、新型コロナウイルス感染症への対応が手探りの状態から始まり、発熱外来の設置や最大12床の新型コロナウイルス感染症患者の病床を確保するなど公的病院として積極的に取り組み 令和5年5月の5類移行後も、引き続き受け入れ病床2床を確保し入院治療を行った。	4	4	新型コロナウイルス感染症への対応では市内の中心となり、公的医療機関としての役割を果たしたことは高く評価している。								
	また、新型コロナウイルスワクチン接種についても玉野市と連携しながら、初期段階での大規模接種や令和6年3月末の公費接種最終段階まで、公的病院として積極的に実施した。			新型コロナウイルスワクチン接種の初期段階での大規模接種と発熱外来、感染症患者の病床の確保等の運用については、理事長を中心に迅速な意思決定を行い、職員が協力して対応を行っている。								
	たまの病院では感染症患者の専用入口の設置、陰圧診察室の設置など、できる限り動線の交差や感染リスクの軽減を図ることのできる構造とし、新興感染症患者の入院受け入れのための病床を確保しており、感染症対策に引き続き取り組む。			たまの病院は感染症対応を想定した構造となっており、新型コロナウイルス感染症への対応経験を活かした取り組みが期待できる。								
				【年度評価結果】								
				<table><tr><td>令和3年度</td><td>令和4年度</td><td>令和5年度</td><td>令和6年度</td></tr><tr><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr></table>	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	4	4	4	4
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度									
4	4	4	4									

大項目	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
小項目	2 医療の質の向上 (1) 地域医療への貢献

中期目標	地域の中核病院として、将来にわたって地域医療を支える医療機関であることの自覚と責任を持って、地域住民に信頼される安全・安心な医療を提供すること。
------	--

中期計画		法人による中期目標期間の自己評価				玉野市による中期目標期間の評価				
		実施状況（評価の判断理由、改善方策）			評価	評価	評価の判断理由・意見等			
2病院が培ってきた診療体制を引き継ぎ、多様な診療機能をもった施設を展開することで、他院からの受け入れ、治療後のかかりつけ医への転院など地域医療の架け橋として、地域住民及び地域の医療機関から信頼される病院を目指す。		地域住民及び地域医療機関から信頼いただけるよう「断らない医療」の実践について職員への周知を図り、救急患者の受け入れに加え、地域の医療機関等からの紹介患者数の増加や、かかりつけ医への逆紹介件数の増加についても組織目標とすることで意識付けを行い取り組んだ。 また、令和5年度から理事長、病院長、地域医療連携室スタッフ等により、地域の医療機関等に対し「紹介応需率100%を目指します」「逆紹介を積極的に行います」とした広報活動を行うなど、地域医療として市内で完結できる入院や検査等については玉野医療センターで積極的に受け入れ、病状が安定している場合は、地域の医療機関へ積極的に逆紹介を行う取り組みを進めた。 地域の中核病院として、機能分化により地域全体で地域医療を支える地域包括ケアシステムの実現に向けた中心的な役割を担い、持続可能で安全・安心な医療の提供に向けた取り組みを進める。			4	4	地域の医療機関との患者の紹介と逆紹介を積極的に推進し、紹介率の実績は増加傾向となっていることから、地域の医療機関との役割分担と連携強化が着実に進捗していると評価している。			
【目標】		【実績】				【年度評価結果】				
項目	令和6年度目標	項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
紹介率	33.8 %	紹介率	31.0 %	33.1 %	38.3 %	45.9 %	3	3	4	4
逆紹介率	31.4 %	逆紹介率	29.5 %	25.9 %	29.0 %	32.8 %				

大項目	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
小項目	2 医療の質の向上 (2) 相乗効果の発揮

中期目標	経営統合による相乗効果を最大限発揮するため、両病院がこれまで培ってきた診療実績を活かし相互の連携・補完関係を強化することで、医療水準の向上に努めること。
------	--

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価											
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等										
市立の公立病院、企業立の民間病院として運営されてきた2つの病院の統合により、それぞれが培ってきた医療技術や知識を共有し、共通意識のもとで医療スタッフの融合を図ることで、医療水準の全体的な底上げを目指す。	2病院の職員が相互の診療機能等を理解し、統合新病院移行後を視野に入れながら、相乗効果を発揮できるよう人事交流等の取り組みを実施した。 第1期における2病院の連携により実施した主な取り組み ・新型コロナワクチンの日曜接種の実施（1日1,050人 計6回） ・新型コロナ病床12床の2病院看護師による運用 ・玉野三井病院放射線科医師による読影の協力体制 ・玉野市民病院から玉野三井病院への当直医師の派遣 ・玉野市民病院から玉野三井病院への医師派遣による内視鏡検査の実施 ・訪問診療における協力体制 ・給食部門における献立の統合 ・統合広報推進委員会設置による情報発信の強化 ・広報誌の「H a r m o n y」の2病院合同発行 ・2病院間の人事異動、人事交流の実施 ・定例の統合運営委員会の実施（月6回程度） ・新病院運営に関するWG会議の実施 ・2病院の医師による合同会議 等	4	4	新型コロナウイルス感染症確保病床の2病院看護師による運用や、玉野市民病院から玉野三井病院への当直医師の派遣といった診療を通じた人事交流と広報誌「H a r m o n y」の2病院合同発行や新病院運営に関するWG会議などを通じた交流により、第1期を通じて、新病院での統合を見据えて、相互の診療機能を理解し、連携を強化するための取り組みを着実に実施している点を評価した。										
【年度評価結果】														
<table><tr><td>令和3年度</td><td>令和4年度</td><td>令和5年度</td><td>令和6年度</td></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td></tr></table>							令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3	3	3	4
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度											
3	3	3	4											

大項目	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
小項目	2 医療の質の向上 (3) チーム医療の実施

中期目標	高度・複雑化する医療・介護ニーズへ対応するため、患者に携わる様々な専門職が多職種連携し情報と方針の共有を行うことで、退院後の状態をイメージしながら総合的なチーム医療を実践し、早期の在宅復帰に向けた支援を促進すること。
------	--

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価			
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等		
医師、看護師を始め、検査及びリハビリ等の医療技術スタッフ、社会福祉士など多職種が集まり定期的にカンファレンスを実施し、早期の在宅復帰に向けたチーム医療の推進を図る。 また、感染対策チーム（ICT）や栄養サポートチーム（NST）など、他職種で構成される医療チームを積極的に活用し、療養環境のサポートを行う。	2病院の協力による人材の活用や患者支援に伴うチームカンファレンスや診療等、連携してチーム医療が行えるよう人員配置等を行った。 第1期において実施した主な取り組み ・統合新病院に向けた各部門の人事交流や現場交流、情報共有の推進。 ・多職種による症例別治療方針カンファレンスの実施。 ・新型コロナウイルス感染症患者受入病床の2病院看護部連携による運営。 ・地域包括ケアシステムの実現に向けた地域医療連携室の体制検討。 ・栄養サポートチーム立ち上げ準備。 ・入院時からの在宅復帰支援。	3	3	新病院に向けた各部門の人事交流や、多職種による症例別治療方針カンファレンスの実施、新型コロナウイルス感染症患者受入れ病床の2病院看護部連携による運営、患者の栄養管理を目的とした栄養サポートチームの立ち上げ準備を行い、チーム医療を実践している。 		

大項目	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
小項目	2 医療の質の向上 (4) 医療従事者の確保及び育成

中期目標	診療体制の充実に欠かすことのできない、医師・看護師等の医療従事者について関係機関と連携・協力体制を構築するなど、必要な人材の確保に努めること。特に、医師については、将来にわたって診療体制を確保するためにも、市と連携し医師派遣体制の充実に努めること。また、医療に携わる者の知識や技術の向上を図るとともに、専門性を持った人材の育成に努めること。
------	--

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価									
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等								
ア 医療従事者の確保 岡山大学を始めとする教育機関、市内外の医療機関との連携により、医師及び研修医の派遣・受入れ体制を確保するとともに、合同説明会への参加や病院見学会の開催など多様な広報活動を通じて、多様で優秀な人材の確保に努める。 特に、医師については地域枠の設定など、国・県が進める医師偏在対策の動向を注視し、制度の活用など地域医療の継続に必要な人員の確保に向けて積極的に推進する。 イ 医療従事者の育成 地域医療の基幹病院として、地域に根ざした実地での研修を通じて経験の蓄積や知識の習得により人材の育成に寄与する。	医師確保については、いずれの診療科も増員は困難な状況であり、第1期における取り組みの成果としては、令和4年度から玉野市と連携しながら地域枠医師確保に向けて取り組んだ結果、令和5年度から内科医師1名配置され、令和7年度から内科医師1名が配置される。 看護師確保の一環として看護学生の実習受入れ、看護学校が主催する就職ガイダンスへの参加、病院見学希望者への随時対応、高校生のインターンシップや中学生のチャレンジワークの受入れなどに積極的に取り組んだ。 その他、薬剤師やリハビリ療法士についても学生実習に積極的に取り組み将来の医療従事者の育成とともに人材の確保に努めた。 引き続き玉野市と連携しながら地域枠医師をはじめとした医師確保に取り組むとともに、看護師やその他の職種についても人材確保に努める。 2病院間での人事交流や現場交流等による法人内の人材育成に努めてきた。また、薬剤師会など職能団体とも積極的にかかわり地域の医療従事者の育成に寄与した。さらに、医療専門学校に講師を派遣して将来の医療従事者の育成にも寄与した。	4	4	全国的な医師不足の状況下ではあるが、令和4年度から市と連携して医師確保に継続的に取り組んだ結果、岡山大学地域枠卒業の内科医師の派遣が令和5年度から2年間の期間で1名、さらに令和7年度から2年間の期間で1名の派遣が決定したことから評価4としている。 【年度評価結果】 <table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>3</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr></table>	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3	4	4	4
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度									
3	4	4	4									

大項目	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
小項目	2 医療の質の向上 (5) 調査・研究・治験への取り組み

中期目標	調査・研究・治験等への積極的な取り組みにより医療水準の向上に貢献すること。
------	---------------------------------------

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価									
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等								
地域医療へ果たすべき役割のみならず将来に向けた医療水準の向上への一助として、積極的に調査・研究・治験への取組みを推進する。 また、院内外研究会等の機会を設け職員の意識高揚を図るとともに、研究成果を共有することで、医療水準の向上に努める。	コロナ禍の影響により中止していた玉野市民病院の院内研究発表会を令和5年度から2病院合同で再開した。多くの職員の参加により有意義な場となった。研究成果については共有し医療水準の向上に努めていく。	3	3	コロナ禍の影響で対面で職員が研究発表する機会が減少する時期があったものの、令和5年度には院内研究発表会を再開し、医療水準の向上に努めている。 また、岡山大学の寄付講座を通じて、玉野市民病院で実施している実地での臨床研究により成果を患者や病院スタッフに還元している点を評価した。 【年度評価結果】 <table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3	2	3	3
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度									
3	2	3	3									

大項目	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
小項目	3 患者サービスの向上 (1) 患者中心の医療の提供

中期目標	断らない医療の実践を基本に、患者の視点に立った患者中心の安全・安心な医療の提供を行うとともに、患者やその家族との対話を通して、信頼が得られるよう分かりやすい説明を心がけること。
------	--

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価									
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等								
ア インフォームドコンセントの徹底 患者の知る権利、自己決定権、自律の原則を尊重する行為であることを根底とし、医療に関する情報を共有することで、医療スタッフと患者との相互理解のもと治療が進められるよう、患者の尊厳を守り、患者・家族の権利に配慮したインフォームドコンセントの徹底を行う。 イ 安静な療養環境の提供 投書箱等の活用により、患者や家族等からの様々な意見、ニーズを把握し、サービスの向上につなげるとともに、院内環境を整備することで療養に専念できる環境を提供する。	インフォームドコンセントの徹底については、引き続き確実な履行に努めた。 2病院間での意識共有、診療情報の取扱いへの配慮等については、新病院整備に向けた運用に関するWG等で検討した。 また、安静な療養環境の提供については、院内環境に関する患者や家族からの意見、ニーズの把握のため、従前からの「ご意見箱」の設置に加えて新たに退院時のアンケートを新たに始めるなどの取り組みを行った。	3	3	患者・家族と病院の信頼関係を構築し、安全・安心な医療の提供につながるインフォームドコンセントの確実な履行に取り組んだことは評価できる。 患者サービスの向上については、ご意見箱と退院時アンケートで得た職員の対応や患者サービスへの意見をサービス向上委員会で定期的に検討し対応を行うことで患者のニーズに応えるよう努めている。 【年度評価結果】 <table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3	3	3	3
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度									
3	3	3	3									

大項目	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
小項目	3 患者サービスの向上 (2) 地域との交流

中期目標	市内イベントへの参加や地元コミュニティとの交流、院内イベント等の開催を通じて、病院のことを知ってもらうための機会を積極的に設け、安心して来院できる環境づくりに努めること。
------	---

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価									
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等								
院内の施設を活用し、病院見学会、院内イベントや健康教室、公開講座などの機会を通じて、地域の方々との交流の機会を持ち、来院しやすい環境づくりに努める。 また、市内で開催されるイベント等への参加を行うことで、より身近な存在として地域住民に求められる病院となるよう交流機会を設けていく。	第1期においては、新型コロナウイルス感染症対策のため、院内イベントについては、病院の日・看護の日など一部しか実施できなかったが、玉野市出前講座等の院外でのイベント等へは看護部を中心に積極的に参加した。 第1期において実施した主な取り組み ・ビーチサッカー大会への救護派遣 ・みなとフェスティバルへの救護派遣 ・玉野まつりへの救護派遣 ・玉野花火への救護派遣 ・玉野スポーツ障害者スポーツ大会への救護派遣 ・病院の日・看護の日（院内イベント）の実施 ・未就業者研修 ・玉野市出前講座 ニコニコタイム（幼児の感染について） ベビーマッサージ ファミリーサポート講習会 健康づくり教室 玉野光南高校 荘内小学校 等 ・看護協会出前講座 玉野高校、山田中学校、宇野中学校、八浜小学校 等 ・インターンシップ受け入れ 玉野商工高校 等 ・チャレンジワーク受け入れ 大安寺中等教育学校 玉中学校 等 ・看護学校イベント参加 玉野総合医療専門学校宣誓式 ソワニエ看護専門学校就職ガイダンス 岡山医療福祉専門学校就職ガイダンス 玉野総合医療専門学校卒業式 玉野総合医療専門学校入学式 岡山医療福祉専門学校卒業式 等 ・地域リハビリテーション活動	3	3	コロナ禍の影響により院内イベントは中止せざるを得なかった時期があったものの、新型コロナウイルス感染症の行動制限の解除後に再開した各種イベントに参加し、積極的に交流している。また、開院前に新病院の内覧会を実施し、病院に来院しやすい環境づくりに努めた。 【年度評価結果】 <table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3	3	3	3
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度									
3	3	3	3									

大項目	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
小項目	3 患者サービスの向上 (3) 医療安全対策

中期目標	患者が安心して安全な医療を受けられる環境を整備するため、医療安全に係る情報の収集と分析により医療事故の発生を未然に防ぐとともに、院内感染防止対策に関して指針に基づく適切な対策を実施すること。
------	---

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価											
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等										
ア 医療安全対策 組織的な医療安全への取組みを進めるため、医療安全対策チームを設置し、医療安全管理者のもと院内の状況把握及び分析を行うとともに、研修等の機会を通じて全職員で医療事故防止に対する認識を共有することで、医療安全に係る体制を継続的に確保する。 イ 感染防止対策 感染対策チームを設置し、定期的に院内の巡回を行うことで院内感染状況の把握、感染防止対策の実施状況を確認するとともに、院内感染対策を目的とした職員への研修を通して、感染防止対策を徹底する。	医療安全委員会、感染対策委員会などにおいて必要な対策を検討し実施した。 第1期において実施した主な取り組み ・医療安全委員会を毎月開催し、ヒヤリハット報告の分析、個別事例の検討を行い、対策を決定して周知するなどの活動を行った。ヒヤリハット報告は発生時間帯など詳細な分析を行った。 ・感染対策チームによる院内ラウンドを毎週行い、感染対策の実施状況を確認し、毎月開催するICT委員会や感染対策委員会において必要な対策を検討した。 ・新型コロナウイルス感染症の発生を契機として感染防止対策を強化した。 ・外部の感染管理研修に参加した職員が研修会の講師を務めるなど感染防止対策の中心的役割を担った。	3	3	コロナ禍を契機に感染症対策の重要性は一段と高まっている中で、医療安全委員会を毎月開催して、個別の対策を行った点、感染対策チームは毎週院内を巡回して対策の実施状況を確認している点を評価している。 特に令和5年度では、医療安全委員会でヒヤリハット報告の発生時間帯などの詳細な分析を行ったこと、岡山県感染管理に関するエキスパートナース研修修了者が感染対策の中心となって対策を実施していることは高く評価している。 【年度評価結果】 <table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>4</td><td>3</td></tr></table>			令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3	3	4	3
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度											
3	3	4	3											

大項目	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
小項目	3 患者サービスの向上 (4) 積極的な情報発信

中期目標	病院の機能や経営状況に加え、診療や疾病予防に関する情報など、ＩＣＴ（情報通信技術）等も活用しながら分かりやすい形での積極的な情報発信に努めること。
------	---

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価									
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等								
ホームページや広報誌、病院紹介パンフレットなど、様々な広報媒体並びにＩＣＴ（情報通信技術）等を活用し、多くの方に当院の取組み、診療情報などを積極的に発信することで、地域に根ざした、地域の医療機関としての認知度の向上を図る。	玉野市民病院が発行していた広報誌「H a r m o n y」を、2病院合同での発行とし、積極的に情報発信をして地域に根差した医療機関としての認知が得られるよう努めた。 ホームページについては、当面の2病院体制の間の措置として、法人のホームページと2病院のホームページを相互にリンクさせることで、一法人としての情報発信体制を整えた。 新たに2病院統合の広報推進委員会を設置し、広報誌「H a r m o n y」の魅力向上、ホームページの頻繁な更新による情報発信力の強化などについて、2病院で協力して取り組み、積極的な情報発信を行うための体制を構築した。 また、広報推進委員会では法人広報の中核として新病院に向けた広報戦略を立て広報活動を進める方針とした。 新病院移行に向け、広報推進委員会のメンバーを中心に、新たなホームページ、新病院紹介パンフレットの作成に取り組み、情報発信の体制を強化した。 たまの病院の紹介パンフレットを作成して広く地域に配布したり、玉野市広報誌「広報たまの」にたまの病院の情報を適宜に掲載していただき地域の医療機関としての認知度向上に努めた。	3	3	広報誌「H a r m o n y」を年3回発行し、積極的に情報発信をして地域の医療機関としての認知度の向上を図った点を評価している。広報誌では、医師が専門とする診療内容や、医療従事者の人柄が感じられる内容の記載もあり、肯定的なご意見を頂いている。 令和6年度においては、広報推進委員会が中心となり、新病院の開院に向けてホームページの内容を検討し、計画的に広報活動を実施した。 【年度評価結果】 <table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td></tr></table>	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3	3	3	4
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度									
3	3	3	4									

大項目	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
小項目	3 患者サービスの向上 (5) コンプライアンスの徹底

中期目標	医療法を始めとする関係法令の遵守はもとより、個人情報保護や情報公開に関しても適切な対応を行うこと。
------	---

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価											
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等										
内部統制を所管する委員会を設置し、医療法を始めとする関係法令の遵守を徹底するとともに、定期的に全職員へ研修を実施するなど、適正な病院運営に努める。 また、個人情報保護や情報公開について、玉野市の個人情報保護条例及び情報公開条例に準拠し、カルテ等の個人情報の保護と患者及び家族等への情報公開について適切な対応を行う。	内部統制委員会については未設置となっているが、法人本部において業務の効率化の検討や監査法人への委託業務による財務報告の信頼性確保、コンプライアンスの一環としてハラスメント等相談窓口を設けるなどの取り組みを行った。 個人情報保護や情報公開など現に対応が必要な事項については、従来通り玉野市情報公開条例への準拠による対応を行うとともに、個人情報保護については、従来は市条例への準拠で対応していたが、令和5年4月に施行された個人情報保護法の改正に対応するため、新たに規程を整備し、個人情報ファイル簿の整備等の準備を行った。 これらに基づき、カルテ等の個人情報の保護と患者及び家族等への情報公開等についての対応を適切に行った。 法人移行直後には、長時間の超過勤務が発生したため、業務の優先順位の見直しや外部委託によるSEの配置を行うなど職員の負担軽減を図った結果、一定程度改善はしているものの、一部職員に引き続き超過勤務が発生し課題となっており、引き続き業務体制の見直しなど改善に取り組んでいる。 たまの病院の開院前後の膨大な業務量を処理するため長時間労働が発生した。	2	2	個人情報保護や情報公開については、法令を遵守した対応を行っているものの、法人内部の例規で定めている内部統制委員会が設置できていないため、内部監査の実施内容も含めて早期に対応する必要がある。 超過勤務については、令和5年度に実施した業務の優先順位や事務分担の見直しにより改善傾向であったが、新病院開院に伴う業務量の増大から労働基準法の上限を超える時間外労働が多数の職員に発生していることとなったことから評価2としている。 【年度評価結果】<table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr></table>			令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	2	2	2	2
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度											
2	2	2	2											

大項目	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
小項目	4 医療機関との連携

中期目標	地域の医療機関のなかで診療機能の役割分担と集約化を図ることで、それぞれが特色を持ちながら相互に連携し、地域全体で地域医療を支えることのできる体制の構築を図り、地域完結型医療の実現を目指すこと。
------	--

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価									
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等								
地域包括ケアサービスの実現に向けて、地域の医療機関との機能分化及び役割分担を進めるとともに、晴れやかネットへの積極的な参画により医療情報ネットワークを活用した診療情報の共有を行い、病院完結型医療から地域完結型医療へと転換を図ることで、地域全体で医療を支える体制の構築を目指す。	地域の中核医療機関としての役割を担うため、断らない医療の実践に取り組み、積極的な救急患者の受入れや地域医療機関との連携における紹介・逆紹介、CT・MRI検査等の受け入れなど、地域全体で地域医療を支える体制の構築を図った。 救急受入れについては、年間の救急受入件数は大幅に増加しており市内医療機関に占める2病院の受入割合も増加した。 市内医療機関との紹介率・逆紹介率は、目標設定時と比較し、算定方法の見直しを行ったことにより上昇しているものであり、単純に比較はできないが、紹介件数・逆紹介件数は着実に増加している。	3	3	医療機関との連携については、地域の医療機関との役割分担と連携の指標となる紹介率と逆紹介率は第1期中期目標期間を通して増加していることから、診療機能による役割分担と連携の強化が進んでいる。 【年度評価結果】 <table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3	3	3	3
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度									
3	3	3	3									

大項目	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
小項目	5 関係機関との連携 (1) 行政機関との連携

中期目標	健康福祉部門を始めとした、市行政の各関係部署と連携し、健康づくり支援や疾病予防等に係る諸計画及び施策の推進に協力を行うこと。
------	--

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価									
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等								
市の行政施策と連携し、健診率の向上、ヘルスケアサービスとの連動等により、健康増進及び疾病予防施策へ寄与することで、市が設立する公立の医療機関としての役割を果たす。	玉野市が実施する健診やがん検診などを積極的に受け入れられるようにするため、健診部門の効率化を図った。 玉野市と連携して、従来からの定期接種に加え、新型コロナウイルスワクチン接種などにも積極的に取り組んだ。 玉野市と連携して、岡山大学、NTTライフサイエンス、PwCコンサルティングの産学官5者連携協定に参画し、遺伝子検査情報を活用した市民の健康増進事業への協力を行った。	3	3	令和3年度及び令和4年度では、特に新型コロナウイルスワクチン接種に市の担当部署と連携して取り組んだことや、市が実施する検診やがん検診などを積極的に受け入れるための効率化の取り組みを行った。 また、令和6年度においては、市が実施する遺伝子検査情報を活用した健康増進事業への協力とたまの病院内に救急隊待機室の場所を確保し、救急患者受け入れの取り組みを行っている。								
				<table><tr><th colspan="4">【年度評価結果】</th></tr><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td></tr></table>	【年度評価結果】				令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
【年度評価結果】												
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度									
3	3	3	4									

大項目	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
小項目	5 関係機関との連携 (2) 医師会等との連携

中期目標	将来的な地域包括ケアシステムの構築に向けて、地元医師会や診療所、介護事業所等と連携し、可能な限り住み慣れた地域での治療・療養ができるよう体制の構築に向けた協議を進めること。
------	--

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価									
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等								
地元医師会を始め、かかりつけ医、介護事業所等との連携により地域全体で医療・介護にあたることができるよう、周辺の先進事例の研究も行いながら、地域包括ケアシステムの構築を目指す。	玉野市医師会の理事会へ2病院の病院長が積極的に参画するとともに、理事長もオブザーバーとして出席し、地域における医療連携のための良好な関係構築に努めた。たまの病院開院後も引き続き3名が出席した。 病・病連携、病・診連携の強化を図るため、令和5年度からは、診療方針に定めた、地域で入院・検査・リハビリの機会を提供する「応需率100%を目指します」、地域でかかりつけ医制度・地域包括ケアシステムを実現する「逆紹介を積極的に行います」とした広報活動を、市内医療機関に対し行った。 たまの病院は地域の中核医療機関として、地域包括ケアシステムの実現に向けた取り組みを一層推進し、持続可能な地域医療の提供体制の整備を目指す。	3	3	医師会との協議の場に両病院長と理事長が定期的に参加し、地域の医療機関との連携を推進するための協力関係構築に努めている。 2病院体制から新病院への移行後においても、地域の医療機関からの入院・検査・リハビリの紹介への応需の取り組みと地域の医療機関への逆紹介の取り組みにより連携を強化し、地域包括ケアシステムの実現に向けて進んでいる。 【年度評価結果】 <table><tr><td>令和3年度</td><td>令和4年度</td><td>令和5年度</td><td>令和6年度</td></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3	3	3	3
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度									
3	3	3	3									

大項目	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
小項目	5 関係機関との連携 (3) 教育機関との連携

中期目標	岡山大学を始め、市内外の教育機関と連携し、卒後教育や生涯教育のための実践的な研修の場として人材育成に協力することで、研修医の受入れや安定的な医療従事者の確保を図るなど、相互協力関係に基づく人材の確保及び育成に努めること。
------	--

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価			
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等		
地域医療の最前線を担う医療機関であると同時に、実地教育の場として積極的に研修の受け入れを行うことで、教育機関と相互協力関係を構築し、安定的な人材の確保及び育成を進める。	岡山大学等の教育機関等との連携により人材確保や人材育成に努めた。 第1期において実施した主な取り組み ・岡山大学総合診療科寄付講座（継続）…非常勤医師2名による臨床研究の受け入れ ・岡山大学小児科寄付講座（新規）…非常勤医師2名による臨床研究の受け入れ ・岡山大学総合診療科から後期研修医の受け入れ ・岡山労災病院から後期研修医の受け入れ ・岡山大学医学部学生の受け入れ ・その他医療関係職種養成施設からの主な学生実習の受け入れ 看護師 玉野総合医療専門学校 岡山医療福祉専門学校 穴吹医療大学校 リハビリ療法士 玉野総合医療専門学校 朝日医療大学校 岡山医療専門職大学 吉備国際大学 宝塚医療大学 平成リハビリテーション専門学校 薬剤師 就実大学 玉野市（救命救急士実習の受け入れ） 玉野市消防本部就業前実習 玉野市消防本部再教育実習	3	3	岡山大学を始めとする教育機関から研修医や実習生を幅広く受け入れて実習の場を提供することで、教育機関との協力関係を構築し、人材育成と将来的な人材の確保に努めている。 <		

大項目	第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項
小項目	1 業務運営体制の構築 (1) 運営体制

中期目標	地方独立行政法人制度を最大限活用し、主体性を持った意思決定ができるよう運営体制を確立するとともに、病院全体が一丸となって、社会情勢の変化や医療保険制度改革に迅速かつ柔軟に対応できるよう運営体制の最適化を図ること。
------	--

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価									
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等								
地方独立行政法人制度のもと、理事長がリーダーシップを発揮し、迅速な意思決定と職員への周知を徹底することで効率的な運営を行うとともに、独立した法人として職員一人ひとりが独立採算の原則を理解し、経営に関する責任と意識を持って自主的かつ弾力的に動くことのできる運営体制を構築する。 また、法人全体として2病院体制から1病院体制へと変化を迎える中であっても、柔軟かつ一体的に運営を行う。	第1期においては理事会による運営体制の構築を行い、理事長及び理事により意思決定を行うとともに、新型コロナウイルス感染症対策など、迅速な対応が求められる諸課題については、理事長を中心とした戦略会議で意思決定を行い速やかに対応した。 理事長が2病院の会議、委員会に積極的に関与するとともに、2病院統合での会議、委員会については主催するなど、理事長のリーダーシップのもと、独立採算を基本とした業務運営を行う体制を構築した。たまの病院開院後も、戦略会議や幹部会議を主催し経営幹部と意思統一して、病院全体を一丸とするべく運営委員会等にも参加するなど積極的に関与している。 また、給食献立の統一やSPD業務の統一、2病院でそれぞれ実施していた人間ドックを玉野市民病院に機能集約を図るなど、地方独立行政法人化による効率的な運営にも取り組んだ。	3	3	コロナ禍の初期において、喫緊の課題となっていた新型コロナウイルスワクチンの接種率向上に向けて、理事長を中心に迅速な意思決定を行い、新型コロナウイルスワクチンの大規模接種を実施するなど効果的な対応をしている。この他、発熱外来の設置、感染患者受入れのための病床を確保するなど対応も行った。 また、毎月実施する全体ミーティングを通じて職員の法人への帰属意識や経営改善に対する意識を高めることで効果的な業務運営を実施している。 【年度評価結果】 <table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3	3	3	3
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度									
3	3	3	3									

大項目	第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項
小項目	1 業務運営体制の構築 (2) 管理体制の強化

中期目標	内部監査体制の構築による内部統制の強化とともに、関係法令の遵守及び職員倫理の確立を図ること。
------	--

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価									
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等								
内部監査を実施する部門を設置するとともに、内部統制を担当する役員及び監事が適切な職務の執行を確保できるよう管理体制を整備する。	当法人の規模に見合った内部監査体制として、一般的に行われている総務部門が兼務により実施する体制の構築を目指しているが、2病院体制の間は、事務部門全般の職員体制が十分でないため、定期的な内部監査を実施できる体制は整えなかった。 たまの病院の開院以降は事務部門の職員体制も一定程度充足され、令和7年度には内部統制・監査部に職員を配置して、速やかに内部監査体制を構築するとともに、現在は法人本部においてコンプライアンス等についての対応を行っている内部統制についても担当役員を中心とした、運営体制が確保できるよう体制整備を目指す。	2	2	現行の2病院体制では、事務部門全般の職員体制が十分でないため、法人設立時から内部監査体制の未整備が課題である。内部監査体制を早期に整備することが求められる。 また、内部統制委員会についても、コンプライアンスの実効性を得るために、早期に体制を整備すべきである。 【年度評価結果】 <table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr></table>	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	2	2	2	2
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度									
2	2	2	2									

大項目	第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項
小項目	1 業務運営体制の構築 (3) 外部評価等の活用

中期目標	病院の運営状況について、第三者からの客観的な視点で評価を受け、評価結果に基づき必要な見直しを行うことで業務の効率化を図ること。また、得られた評価結果に対して、どのような反映を行ったかを適切に示すことで、開かれた組織とすること。
------	---

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価									
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等								
監事による法人の監査及び評価委員会による第三者視点からの病院運営に係る評価を受けることで、適宜必要な見直しを行い業務の効率化を図る。 また、公益財団法人日本医療機能評価機構が提供する病院機能評価等を活用し、中立的、科学的、専門的な見地からの評価を受けることで、適切な病院運営を維持する。	監事には法人の事業年度毎の会計監査、事業監査において病院運営の評価をしていただいている。また、理事会にも出席いただき、議事や各種報告等について意見をいただいている。 外部評価については、たまの病院で公益財団法人日本医療機能評価機構が提供する病院機能評価等を活用した中立的、科学的、専門的な見地からの評価の再開を目指す。	3	3	弁護士と公認会計士各1名が監事として法人のコンプライアンスや財務内容について第三者視点からの監査を実施する体制となっている。 【年度評価結果】 <table><tr><td>令和3年度</td><td>令和4年度</td><td>令和5年度</td><td>令和6年度</td></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3	3	3	3
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度									
3	3	3	3									

大項目	第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項
小項目	2 職場環境の整備 (1) 働きやすい職場環境の整備

中期目標	ワークライフバランスや職場の安全衛生の確保、コミュニケーションの活性化などを通じて職場環境の改善を図り、働きやすい職場環境の整備に努めること。
------	---

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価									
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等								
ア ワークライフバランスへの配慮 育児・介護休業制度の適正な運用により仕事と家庭の両立を支援する。 イ 院内施設整備 院内に病児病後児保育施設を整備し、職員の利用も促すことで安心して子育てができる環境作りを進める。 ウ コミュニケーションの活性化 職員互助会等の活動を支援し、職員間のコミュニケーションの円滑化を図る。 エ 専門性の向上 医師や看護師等の業務の多様化、複雑化に対応するため、必要に応じて医療クランクや看護助手等の配置を行い、業務の専門性の向上を図る。	地方独立行政法人への移行に際し、働きやすい環境整備のため、各種休暇制度については基本的に公務員と同等の水準としたうえで、2病院の制度を比較してより高い水準に合わせた制度設計とし、ワークライフバランスに配慮した。 その他福利厚生としては、病児病後児保育について、職員も利用可能とするとともに、玉野勤労者福祉サービスセンターに加入し、福利厚生事業を実施した。 たまの病院では多職種が交流することのできるスペースとしてスタッフラウンジを設けた。昼食時間等の休憩時間に活発な交流が行われコミュニケーションが活性化された。 専門職が専門性の高い業務に集中して取り組める環境整備を図るため、業務のタスクシフトについて引き続き導入に向けた検討を行った。令和6年度には病棟看護師の事務処理を行うスタッフを配置した。	2	2	各種休暇制度については公務員と同水準となっており、働きやすい職場環境となっている点は評価している。 他方で、長時間の超過勤務が一部の職員に発生している問題は令和6年度に一定程度改善したものの、新病院の開院前後の事務量の増加により再び長時間の超過勤務が発生する事態となったことから中期計画を下回る評価としている。 【年度評価結果】 <table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr></table>	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	2	2	2	2
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度									
2	2	2	2									

大項目	第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項
小項目	2 職場環境の整備 (2) 職員の職務能力の向上

中期目標	医療の進歩に伴って必要となる知識や技術が高度・複雑化するなかで、より専門性を持った知識や技術の習得のため、研修制度や専門資格取得に関する支援等について充実を図ること。また、独立した法人として業務を継続するために、法人運営に携わるプロパー職員の育成を図ること。
------	---

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価									
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等								
ア 研修制度及び資格取得支援制度の充実 専門的な知識や技術の習得を推進し、研修会への参加、資格の取得等について助成を行うなど、研修制度及び資格取得支援制度の充実を図る。 イ プロパー職員の育成 法人運営に関する業務の習熟のため、段階的な出向職員からプロパー職員への業務の引き継ぎ、外部研修への参加、雇用の確保等によりプロパー職員の育成を図る。	業務に必要な研修会への参加を促進するとともに、業務に直結する一部資格については資格手当を創設するなど資格取得を推奨した。 また、プロパー事務職員の業務の習熟を図るため外部監査法人による専門的な支援により一部業務を実施した。 2 病院の職員が、それぞれ得意分野の知識や技術をO J Tなどにより相互に共有し人材育成できるようにするため、人事交流や人事異動等を進めた。 第1 期において参加した主な外部研修会・講習会 ・中国ストーリーリハビリテーション講習会 ・岡山県がん薬物療法看護指導者講習会 ・医療安全管理者養成研修 ・岡山県保健師助産師看護師実習指導者講習会 ・岡山県感染管理に関するエキスパートナース育成研修	3	3	第一期中期目標期間前半においてはプロパー職員の定着と育成について課題もあったものの、業務に必要な研修会への参加を促進するなど職員の職務能力の向上や、プロパー職員の業務の習熟に努め、プロパー職員が法人運営に関する主要な業務を担っている。 【年度評価結果】 <table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	2	2	3	3
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度									
2	2	3	3									

大項目	第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項
小項目	2 職場環境の整備 (3) 効果的な人事・給与制度の構築

中期目標	職員の業績や能力、職責などを適正に反映し、職員のモチベーションの向上と組織としての活性化を図るため、職員の意欲を引き出す人事評価制度を構築すること。また、給与制度は、社会一般の情勢を踏まえた適正な水準とし、病院の業績を踏まえた上で、職員の能力・成果を公正に反映させたものとする。
------	---

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価									
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等								
法人の移行に合わせて、新たな人事給与制度へと転換を図るなかで、職員の業績や能力、職責に応じた仕事が適正に反映される、公正・公平な人事給与制度を構築し、職員のモチベーションの向上と組織の活性化を図る。	第1期においては、地方独立行政法人に必須事項とされている職員の能力や業績を反映した人事・給与制度を構築するため、人事評価制度の導入を行った。 人事評価制度の評価結果については、昇任選考や賞与への反映を行うことはもとより、フィードバックを行うことにより人材育成を図った。	3	3	令和4年度から人事評価制度の運用を開始し、評価結果をフィードバックすることで個人の人材育成に活用しつつ、昇任選考や賞与に反映することにより、職員のモチベーションの向上と組織の活性化を図っている。人事評価制度は個々のスタッフの成長と組織全体の活性化を同時に促進する効果があるため、引き続き効果的な運用を期待している。 【年度評価結果】 <table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3	3	3	3
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度									
3	3	3	3									

大項目	第4 財務内容の改善に関する事項
小項目	1 経営基盤の確立

中期目標	病院の経営統合による業務の効率化を最大限発揮し、中期計画期間を通じて病院運営に係る経営基盤の確立を図ること。
------	--

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価				玉野市による中期目標期間の評価																																
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）				評価	評価	評価の判断理由・意見等																														
本中期計画期間中には、新病院建設に関する費用が計上されるため、全体で見れば一時的な収支の悪化が見込まれるものの、経営統合に合わせて行う業務の見直し等により、新病院建設費用を除いた収支では、中期計画期間中を通して収支の均衡を目指し、新病院の開院に向けて経営基盤を確立する。 【目標】 <table><tr><th>項目</th><th>令和6年度目標</th></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>85.1 %</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>92.6 %</td></tr></table>	項目	令和6年度目標	医業収支比率	85.1 %	経常収支比率	92.6 %	2病院体制の間にあっても経営統合によるメリットを最大限に生かせるように2病院の業務の見直しを行い効率化を図った。 たまの病院移行後の患者数を視野に入れながら、2病院の病床稼働率の向上にのための取り組みについて検討を行った。 第1期において実施した効率化のための主な検討内容 ・薬剤の共同調達 ・患者給食メニューの統一 ・SPD業務の統一 ・人間ドック業務の玉野市民病院への集約 ・地域医療連携室の機能強化 ・病床稼働率向上のためのベッドコントロール実施体制 【実績】 <table><tr><th>項目</th><th>令和3年度実績</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和6年度実績</th></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>86.7 %</td><td>88.6 %</td><td>90.9 %</td><td>81.4 %</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>104.5 %</td><td>104.8 %</td><td>101.4 %</td><td>89.6 %</td></tr></table>				項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	医業収支比率	86.7 %	88.6 %	90.9 %	81.4 %	経常収支比率	104.5 %	104.8 %	101.4 %	89.6 %	3	3	新型コロナウイルス感染症対策に積極的に取り組むことで関連する補助金収益が得られた結果、令和5年度までは経常収支比率で目標を達成し、黒字を確保している。 令和6年度の経営については、収入面では新病院への移転のための入院・外来患者の受け入れの制限を実施したことに加え、費用面では新病院の建設費用の増加と移転費用の発生、物価上昇による医療材料費などの増加があったことで、医業収支比率と経常収支比率ともに令和6年度目標を下回る結果となったが、新病院への移転に伴う診療の制限と新病院建設費用の増加の影響を最小限に抑えることに努めたことを評価した。 【年度評価結果】 <table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3	3	3	3
	項目	令和6年度目標																																			
医業収支比率	85.1 %																																				
経常収支比率	92.6 %																																				
項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績																																	
医業収支比率	86.7 %	88.6 %	90.9 %	81.4 %																																	
経常収支比率	104.5 %	104.8 %	101.4 %	89.6 %																																	
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																		
3	3	3	3																																		

大項目	第4 財務内容の改善に関する事項
小項目	2 収入の確保と経費の節減 (1) 収入の確保

中期目標	経営統合による2病院の体制から新病院へと移行していく中で、適切に機能分化及び機能集約を進め、刻々と変化する医療ニーズに対して柔軟に対応することで、安定的に経営を継続することのできる収入を確保すること。また、診療報酬改定や医療制度変革に的確に対応するとともに、未収金の発生予防や請求漏れの防止などにおいて適切な対策を行うこと。
------	--

中期計画		法人による中期目標期間の自己評価				玉野市による中期目標期間の評価				
		実施状況（評価の判断理由、改善方策）				評価	評価	評価の判断理由・意見等		
経営統合に係る2病院体制時の機能分化、新病院への機能集約に加えて、医療スタッフの重点的な配置転換等を行うことで、医療水準の向上及び新たな施設基準の認定、診療報酬の加算等を取得することで収入の向上を図る。 また、電子カルテシステムの導入を進め、請求漏れの防止及び業務の効率化により診療報酬の確保を図る。		収入の柱である入院収益については、2病院体制の間は病床稼働率80％を目標として根幹となる医業収益の確保を目指した。救急搬送患者や紹介患者の積極的受入れにより病床稼働率は向上したが目標には届かなかった。 たまの病院開院後は病床稼働率95％の目標を上回る患者数を確保することができた。 外来収益については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外来患者の受診行動変容等の影響により延べ患者数が回復しておらず目標に届いていない。 新病院への移行にあわせて、新しい電子カルテなど医療情報システムの導入を進め、請求漏れの防止や業務の効率化を図るとともに、統合により集約される人的資源を活用し、地域医療連携の機能強化やベッドコントロールによる病床稼働率の向上、さらには在宅医療や健診・人間ドックなど需要が見込まれる分野での収益確保を図った。				3	3	令和3年度から5年度の期間においては、収益確保に向けて救急搬送患者や紹介患者の受入れなどに取り組んだが、コロナ禍によって患者数や収益に悪影響が出たことから、目標は未達成となった。一方で公的医療機関の役割として新型コロナウイルス感染症対策に取り組むことで、補助金収益が得られたことは経営基盤の確立に繋がった。 令和6年度においては、新病院への移転に伴う診療の制限による入院・外来収益と病床稼働率の減少の影響を最小限に抑えるとともに、新病院開院後は入院患者を積極的に受け入れ第2期中期目標の病床稼働率の目標値を実績値が上回って推移している点を評価した。		
【目標】		【実績】				【年度評価結果】				
項目	令和6年度目標	項目	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
病床稼働率	81.7 %	病床稼働率	71.7 %	71.6 %	73.5 %	76.9 %				
入院患者数	74,399 人	入院患者数	70,446 人	70,302 人	72,376 人	70,022 人	3	3	3	3
外来患者数	128,294 人	外来患者数	114,537 人	115,150 人	108,918 人	101,321 人				
入院収益	20.7 億円	入院収益	21.5 億円	21.7 億円	22.3 億円	21.4 億円				
外来収益	10.5 億円	外来収益	10.2 億円	10.6 億円	10.6 億円	10.1 億円				

大項目	第4 財務内容の改善に関する事項
小項目	2 収入の確保と経費の節減 (2) 経費の節減

中期目標	地方独立行政法人として自主性の高い運営形態であることの利点を生かし、費用のなかでも大きな割合を占める給与費、材料費等について、人事給与制度の見直しや弾力的な人員配置、民間手法も活用した全般的な業務の見直し、効率化によって経費の節減を図ること。
------	---

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価				玉野市による中期目標期間の評価																																							
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）				評価	評価	評価の判断理由・意見等																																					
2病院が統合することの利点を最大限活用し、新たな人事給与制度のもとで効果的な運用を行うとともに、2病院間及び新病院における効率的な人員配置により給与費の適正化を図る。 また、官民の経営手法を活かした業務内容の精査を進め、必要性の有無だけでなく、契約手法から契約内容に至るまでの業務全般にわたる経費の節減を図る。特に、診療材料や薬品等においては、経営統合によるスケールメリットを活かした積極的な価格交渉により費用の圧縮を図る。	第1期においては、光熱費や診療材料などの急激な物価高騰が進む中で、新病院への移行を視野に入れながら、2病院の薬剤や診療材料の品目の統一にあわせて同種同効品への切り替えなど調達の工夫による材料費の縮減に向けて取り組んだ。 給与費については物価高騰に対応した賃上げ誘導が続いているが、適正な人員配置や業務を見直し効率的な働き方を進めるための工夫に取り組んだ。				3	3	新病院への統合を見据えて、2病院の薬剤や診療材料の品目の統一による材料費の縮減等に取り組んで、費用の圧縮に努めている。 また、コロナ禍の受診控えの影響により医業収益はコロナ禍前に比べて縮小傾向となり、医業収益を分母とする指標が悪化する傾向となった点を考慮しての評価としている。																																					
【目標】	【実績】				【年度評価結果】																																							
<table><tr><th>項目</th><th>令和6年度 目標</th></tr><tr><td>対医業収益給与費比率</td><td>79.0 %</td></tr><tr><td>対医業収益材料費比率</td><td>11.6 %</td></tr><tr><td>対医業収益経費比率</td><td>20.8 %</td></tr></table>	項目	令和6年度 目標	対医業収益給与費比率	79.0 %	対医業収益材料費比率	11.6 %	対医業収益経費比率	20.8 %	<table><tr><th>項目</th><th>令和3年度 実績</th><th>令和4年度 実績</th><th>令和5年度 実績</th><th>令和6年度 実績</th></tr><tr><td>対医業収益給与費比率</td><td>79.6 %</td><td>76.0 %</td><td>75.2 %</td><td>78.6 %</td></tr><tr><td>対医業収益材料費比率</td><td>11.0 %</td><td>11.5 %</td><td>11.2 %</td><td>12.3 %</td></tr><tr><td>対医業収益経費比率</td><td>20.2 %</td><td>21.4 %</td><td>20.6 %</td><td>22.5 %</td></tr></table>				項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	対医業収益給与費比率	79.6 %	76.0 %	75.2 %	78.6 %	対医業収益材料費比率	11.0 %	11.5 %	11.2 %	12.3 %	対医業収益経費比率	20.2 %	21.4 %	20.6 %	22.5 %	<table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>				令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3	3	3	3
項目	令和6年度 目標																																											
対医業収益給与費比率	79.0 %																																											
対医業収益材料費比率	11.6 %																																											
対医業収益経費比率	20.8 %																																											
項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績																																								
対医業収益給与費比率	79.6 %	76.0 %	75.2 %	78.6 %																																								
対医業収益材料費比率	11.0 %	11.5 %	11.2 %	12.3 %																																								
対医業収益経費比率	20.2 %	21.4 %	20.6 %	22.5 %																																								
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度																																									
3	3	3	3																																									

大項目	第4 財務内容の改善に関する事項
小項目	3 運営費負担金

中期目標	市が負担する運営費負担金は、公的な医療機関としての役割を果たすために必要な不採算医療や政策的医療を実施するため、法人の収入のみをもって事業の継続が困難であると認められる経費等について負担されるものであり、財政負担への理解が得られるよう効率的な経営に努め、自立した運営を図ること。
------	---

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価											
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等										
運営費負担金は公的な医療を継続して提供するために救急医療、小児医療などの不採算医療及び政策的医療に係る経費に充当するものとして必要最低限に留め、独立採算の原則に基づき縮減を図る。 新病院建設を始めとする建設改良費及び長期借入金等元利償還金に充当される運営費負担金については、最大限設備投資に係るコストの縮減を図り、負担の軽減に努める。	運営費負担金の対象となる救急医療や小児医療などの政策医療について診療実績を向上させるための取り組みを行った。救急搬送受入数の増加や小児科外来受診患者数の増加などの実績を上げることができた。 また、建築資材や燃料費の高騰等の影響により新病院建設に係る事業費の大幅な増加となったため、イニシャルコストやランニングコスト圧縮により、法人及び玉野市一般財源の将来的な負担軽減を図るため、再度V E等について検討を行うなど費用の縮減に努めた。	3	3	運営費負担金の対象となる救急医療と小児医療について、救急受入件数と小児科外来患者数は令和3年度以降増加傾向であるため、効率的な運営をしていると評価している。 令和3年度から令和5年度の間は、法人の財政基盤を安定化する意味で一時的に運営費交付金として措置を行っていたが、独立採算の原則に基づき、安定的な運営が継続されるよう収入の確保と経費の削減に努めていた。 【年度評価結果】 <table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>			令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3	3	3	3
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度											
3	3	3	3											

大項目	第5 その他業務運営に関する重要事項
小項目	1 新病院の整備

中期目標	本市に必要な規模・機能を備えた新病院となるよう、将来的な医療需要を把握し適切な新病院の整備を進めること。また、その後の施設の維持管理についても適正な管理に努めるとともに、地域全体の医療資源を把握した上で、効果的な整備計画の推進を行うこと。
------	---

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価									
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等								
地域医療の中核を担う病院として、将来的な医療需要も勘案した適正かつ多様な機能を備えた新病院の整備を進めるとともに、本市の医療連携の拠点としての役割を担うことのできる施設とする。	患者の利便性を重視するとともに、職員にとっても使いやすい病院整備を目指し、専門的な知見を活用しながら、設計者、施工者との細部にわたる協議を行った。 また、建築資材や燃料費の高騰、品薄状態が続いている影響等により、新病院建設に係る事業費の大幅な増加や工期についても先行き不透明な状況の中で、地域の中核医療機関としての必要な機能を損なうことなく整備費用やランニングコストを圧縮するため、再度VE等の検討を行うなど縮減に努めた。 計画通りの工期により令和6年10月18日に竣工、引き渡しを受けた。	4	4	建設工事については、患者の利便性に配慮しつつも、職員にとっても使いやすい施設となるよう詳細な協議をしながら、工期の遅れもなく着実に施設の竣工に至っている。 設計者、施工者と詳細な協議を行って費用の圧縮に努めながら、地域医療の中核を担う病院として必要な機能を備えた施設を整備したことを評価している。 【年度評価結果】 <table><tr><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td></tr></table>	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3	3	3	4
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度									
3	3	3	4									

大項目	第5 その他業務運営に関する重要事項
小項目	2 新病院への移行

中期目標	新病院の開院に際しては、2病院が持つ機能を1病院へと集約するために、安全に移転作業を進めるとともに、円滑な新病院への移行に努めること。
------	---

中期計画	法人による中期目標期間の自己評価		玉野市による中期目標期間の評価									
	実施状況（評価の判断理由、改善方策）	評価	評価	評価の判断理由・意見等								
患者や医療機器の移転から、開院時の混乱を極力減らすことのできるよう、十分な準備のもと、円滑な移行作業を行う。	令和7年1月の新病院開院に向けて、専門コンサルティング業者の支援を受けて運営方法の検討や医療情報システム、医療機器等の調達を進めた。 移転準備についても専門業者による先進事例や知見を活用した検討を行い、円滑な移転作業が行えるよう準備を進めた。 令和7年1月1日に入院患者を安全に移送し、たまの病院を開院した。	4	4	専門コンサルティングの知見を活用しながら、医療機器や医療情報システムの調達を計画的に進め、新病院への移転について移転リハーサルを繰り返し行うなど入院患者を安全に移送するための準備を着実に実施し、令和7年1月に新病院への移行を完了している。 【年度評価結果】 <table><tr><td>令和3年度</td><td>令和4年度</td><td>令和5年度</td><td>令和6年度</td></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td></tr></table>	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	3	3	3	4
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度									
3	3	3	4									

大項目	第6 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画		
-----	-------------------------------	--	--

1 予算（令和3年度～令和6年度）（単位：百万円）

区分	計画	実績	差額
収入			
営業収益	17,151	16,798	△ 354
医業収益	15,421	14,097	△ 1,324
運営費負担金交付金	1,598	1,601	4
その他営業収益	133	1,099	966
営業外収益	415	214	△ 201
運営費負担金	100	45	△ 54
その他の営業外収益	315	169	△ 147
資本収入	12,558	8,215	△ 4,342
運営費負担金	53	89	36
長期借入金	10,654	7,592	△ 3,062
その他資本収入	1,851	534	△ 1,317
その他の収入	0	0	0
計	30,124	25,227	△ 4,897
支出			
営業費用	16,671	14,595	△ 2,076
医業費用	15,517	13,482	△ 2,036
給与費	10,390	8,850	△ 1,539
材料費	1,872	1,648	△ 224
経費	3,208	2,965	△ 243
研究研修費	48	19	△ 30
一般管理費	1,154	1,114	△ 40
営業外費用	328	205	△ 124
資本支出	12,796	8,248	△ 4,548
建設改良費	12,508	7,944	△ 4,564
償還金	288	305	17
その他の支出	0	0	0
計	29,795	23,048	△ 6,747

2 収支計画（令和3年度～令和6年度）（単位：百万円）

区分	計画	実績	差額
収入の部	16,593	17,035	442
営業収益	16,366	16,725	359
医業収益	14,591	13,984	△ 607
運営費負担金交付金	1,597	1,618	21
資産見返負債戻入	80	32	△ 48
その他営業収益	98	1,091	993
営業外収益	227	272	45
運営費負担金	152	118	△ 34
その他の営業外収益	75	154	79
臨時利益	0	38	38
支出の部	16,724	17,145	421
営業費用	16,370	16,111	△ 259
医業費用	14,410	14,933	523
給与費	9,927	10,068	141
材料費	1,983	1,607	△ 376
経費	1,841	2,705	864
減価償却費	622	535	△ 87
研究研修費	37	17	△ 20
一般管理費	1,960	1,178	△ 782
営業外費用	336	901	565
臨時損失	18	134	116
純利益	△ 131	△ 110	21
目的積立金取崩額	0	0	0
総利益	△ 131	△ 110	21

3 資金計画（令和3年度～令和6年度）（単位：百万円）

区分	計画	実績	差額
資金収入	25,181	25,330	149
業務活動による収入	16,513	16,595	82
診療業務による収入	14,592	13,777	△ 815
運営費負担金による収入	1,749	1,532	△ 217
その他の業務活動による収入	172	1,285	1,113
投資活動による収入	954	1,143	189
その他の投資活動による収入	954	1,143	189
財務活動による収入	7,714	7,592	△ 122
長期借入による収入	7,714	7,592	△ 122
その他の財務活動による収入	0	0	0
前期中期目標期間からの繰越金	0	1,152	1,152
資金支出	25,193	25,146	△ 47
業務活動による支出	15,993	16,898	905
給与費支出	10,922	10,784	△ 138
材料費支出	1,983	1,644	△ 339
その他の業務活動による支出	3,088	4,470	1,382
投資活動による支出	8,802	7,944	△ 858
有形固定資産の取得による支出	8,802	7,550	△ 1,252
その他の投資活動による支出	0	394	394
財務活動による支出	398	305	△ 93
長期借入金の返済による支出	0	27	27
移行前地方債償還債務の償還による支出	160	132	△ 28
その他の財務活動による支出	238	145	△ 93
次期中期目標期間への繰越金	△ 12	1,335	1,347

（注1）金額は、それぞれ四捨五入によっているので、合計と一致しないものがある。